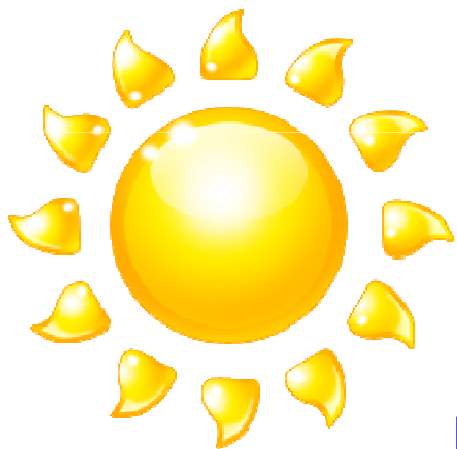


第4回 宗教と環境シンポジウム



基調講演

『エコ文明への大転換』

市場社会への懸念と望まれる自然への回帰

2013年11月9日

岡本 享二

(ブレーメンコンサルティング代表)

基調講演 目次

1) 産業革命以降の地球環境の劣化と社会変化

- 最新科学からの報告 (IPCC第6次報告を中心に)
- 100年前との比較 (人文科学的に)
- 企業の社会的責任 (CSR) とは

2) 環境/社会問題の本質を探る

- 「命」と「いのち」。「いのち」の重要性について
- 森から「いのち」を、五重の塔から「生物多様性」を知る
- 「部分」と「全体」、「一極集中」と「多極分散」、「モノカルチャー」の不安

3) 環境問題の根源と、ひとり一人の心構え

- 資本主義の問題点と対応
- 宗教界 (宗教研究家) と環境学者の役割

4) RSEの「起源・理念・目標・活動・組織運営体制」

100年前の人文科学者と環境問題

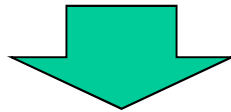
- ・ 夏目漱石(1867～1916) 47歳
 - イギリス留学、朝日新聞社、作家
 - 「吾輩は猫である」1905年
 - 「坊っちゃん」「三四郎」1906年
 - 「それから」19010年「門」1911年
 - 「行人」「こころ」「明暗」と続いた
- ・ 南方熊楠(1867～1941) 47歳
 - 博物学者、生物学者、民俗学者
 - アメリカ、南米、イギリスなどに留学
 - 18各国語をしゃべり「サイエンス」に掲載された論文は50を超える
 - デイキンズと方丈記を共訳 1905年
 - 神社合祀令反対運動 1907年
 - 柳田國男と親交を深める 1913年
 - 昭和天皇にご進講 1929年
- ・ 柳田國男(1875～1962) 39歳
 - 民俗学者
 - 「遠野物語」 1910年など著書多数
 - 雑誌「郷土研究」刊行
 - 貴族院書記官長 1914年
 - 文化勲章受章 1951年
- ・ 宮沢賢治(1896～1933) 18歳
 - 詩人、童話作家、(科学者)
 - 三陸地震&大津波 1896年1933年
 - 旧制盛岡中学校3年生 1913年
 - 「風の又三郎」「銀河鉄道の夜」
「注文の多い料理店」「よだかの星」
 - 「雪渡り」「セロ弾きのゴーシュ」
「なめとこ山の熊」「オツベルと象」
 - 「虔十公園林」「いちょうの実」

「命」と「いのち」

- ・ 蜂は、蜂の巣全体でひとつの「いのち」と言われている
 - 一匹一匹の「命」は単なる全体の構成要素
 - 人間でいう、ひとつの細胞のようなもの
- ・ 深い森には神が宿るといいますが、各構成要素を取り除いてゆくと、..
 - 森林⇒材木に
 - 動物⇒肉や毛皮に
 - 小動物⇒ペットや餌に 神はいったいどこに行ったのか？
 - 昆虫⇒百貨店で販売
 - 草花⇒薬草として使ったり、鑑賞用に

生物多様性の富

- ・ 遺伝の多様性：ある一種の中での遺伝子の多様性
- ・ 種内の多様性： 一 種間の多様性 (多くの種が存在すること)
- ・ 生態系の多様性：より高次の水準、生態系における多様性



- ・ 原材料や資源の供給： 木材、石油、食物、薬(生薬)など
- ・ 生活の安全、調整機能：水のろ過、保水、緑園、心の安寧
- ・ 文化的な富：古代の詩歌はほとんど自然を詠む、地域文化、
原住民の知恵、伊勢神宮の式年遷宮など等
- ・ 現代の「グローバル化」「モノカルチャー」への疑問
- ・ 南方熊楠曰く「この世に不要のものなし」

遺伝子組み換え作物(GMO)の考察

- ・ 1973年：遺伝子組み換え技術誕生
- ・ 1996年：遺伝子組み換え農作物の商業栽培開始
 - 除草剤耐性大豆
 - 害虫抵抗性トウモロコシ・ジャガイモ・綿
 - 1996年の栽培面積は世界で170万ヘクタール
 - 2012年の栽培面積は1億7030万ヘクタールまで急増
 - (↑日本の面積の5倍、農耕面積比では実に37倍)
- ・ **ポリティカルな生産国の事情**
 - アメリカ、カナダ、ブラジル、アルゼンチンなど北米南米で盛ん
 - ・ GMO率トウモロコシ、大豆：米国(88%、94%)、ブラジル(65%、83%)
 - ヨーロッパ諸国とロシアは慎重で1%以下

【世代間の公正】

未来・将来世代

将来の世代が、私たちと同等の環境を享受する権利があることを深く認識し、私たちの事業や暮らしが未来に与える影響を常に考え、行動に活かします

【対話と協働】

簡単な答えのない持続可能な社会の実現にむけて、多様な価値観を尊重し、これまでの常識にとらわれない新たな価値を創造するために、幅広い分野の関係者との「対話」を積み重ね、違いを活かして「協働」していきます。

【参加体験型】

自然や社会と私たちをつなげる「感性」や「直観」を育み、自分ごととして当事者意識や主体性を培うために、知識伝達型の教育だけでなく、ESDの実践の中で重視されてきた「参加体験型の学び」の手法を活用します。

持続可能な社会の実現へ

【種間の公正】

自然・生態系

生物から学び、生態系を生かした自然資本の見直し充実による環境問題に対する具体的な解決を図ります。また、人間社会の各種システムへの適応可能性を探ります。

【文化と知恵の再評価】

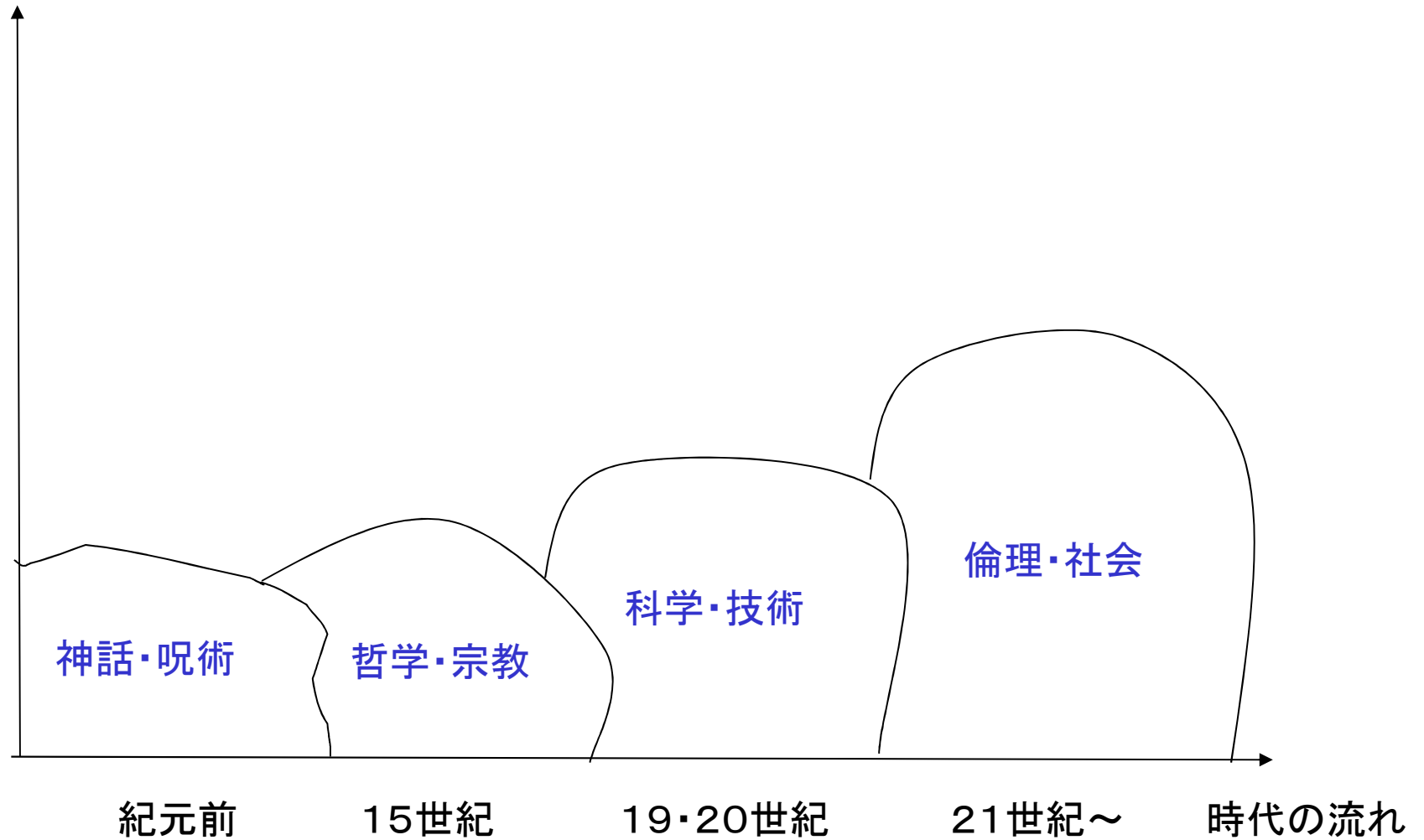
各国各地域で忘れられかけている文化や伝統的な自然観などを見直し、そこから学べる知恵を再評価し、未来に継承発展させます。

【世代内の公正】

ひと・世界中の人々

私たちの事業や暮らしが、途上国をはじめ国内外の社会・経済的弱者とも関係していることを認識し、できるだけ負担を強いないうように考え、実践に努めます。

文明を動かす知の指導原理



基調講演でお伝えしたいこと

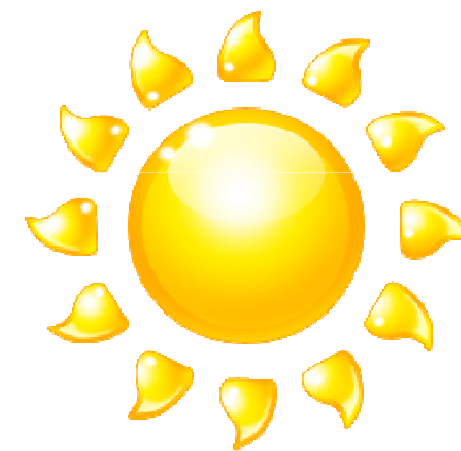
**地球環境の汚染・破壊を完全に治癒し、
地球社会の持続性を実現するために；**

- 【哲学】** 全体感 (Holistic Approach) と弾力性 (Resiliency) を持って実行につなげよう！
- 【知識】** 部分的な知識に陥ることなく、正しい知識を積極的に吸収しよう！
- 【行動】** 哲学・知識・行動を三位一体として毎日の行動を習慣化しよう！

第4回 宗教と環境シンポジウム

- ・ 地球環境の汚染・破壊を完全に治癒し、地球社会の持続性(サステナビリティ)を実現することを目的に
 - 人間と自然(環境と多様のいのち)との共生と公正
 - 同世代における人間同士の共生と公正
 - 世代間における人間同士の共生と公正

三つの共生と公正を実現するために
力を結集して行動しましょう！



基調講演

『エコ文明への大転換』

The END

ご清聴ありがとうございました